

GREEN Rader

全農長野県本部情報 グリーンレーダー

2026

4

Vol.563



令和8年度スタートにあたって

重点事業方針

A-Policy

施設住宅課の取り組み

A-Reports

- 長野県産ブドウ「ナガノパープル」を使用した
クラフトチューハイ「實CRAFT」<信州ナガノパープル>発売 5
- 令和7年度 山口・九州地区でのきのこの消費宣伝活動について 6
- 長野米カップ長野県小学生バレーボール大会 7
- PO印刷本社前の看板を架け替え 7
- 令和8年度 機構・分掌・要員について 8
- 令和8年度 全農長野県本部機構図 9

- 今月のおすすめレシピ 10
- 4月のラジオ番組表 10
- 編集後記 10



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

令和8年度スタートにあたって

全農長野県本部 県本部長 長谷川 孝治



花々が鮮やかに春の景色を彩る季節となり、農作業も本格的に動き出した中で、長野県本部の令和8年度事業が始まりました。

職員一同、新たな気持ちで総合経済事業を通じて、「JA組合員のために何をすべきか」という原点を見据えて、営農と生活向上への貢献と、JA営農経済事業への発展に組織をあげて取り組みを進めて参ります。

さて、長野県本部の令和7年度決算は、供給販売高で計画比99・96%となる2,699億円を見込んでおります。

昨年の夏季は酷暑により、国内最高気温や各地での猛暑日数などの記録が次々と塗り替えられた年で、農産物の高温障害や日焼け被

害、局地的な豪雨の発生などにより、様々な品目に被害を及ぼしました。

一方、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、米・中の対立、米・イスラエルのイラン攻撃による地政学リスクに伴い、依然として不安定な中東情勢での原材料・エネルギー価格高騰、国内運送業界の物流費上昇等、生産に必要な肥料・資材は高止まり傾向となり、農畜産物の営農環境は厳しい状況が続いています。

我が国の食料自給率は先進国の中でも最低水準にあります。令和の米騒動に象徴されるように食料品の流通が注目され、食と農への関心が高まっている状況下において、「食料安全保障の確立」はJAグループの最重要使命の一つです。そのため、長野県本部は安全・安心な食料供給に向けて、役割を果たすべく事業を遂行して参ります。

また、生産現場における多くの課題に対処するため、産地振興に

向けた営農基盤強化を目指し、各施策の具体化に向けて、引き続き組織をあげて取り組みを進めて参ります。

本年は「2025～2027 JA長野県3カ年計画」「県本部中期事業計画（令和7～9年度）」の2年目の年となります。この中では、①持続的な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持・拡大、②販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化、③JA経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくりを基本目標としています。

特に販売力強化については、適正な価格形成のため、メディア媒体を通じて啓蒙活動の強化、個別取引先との交渉、「国消国産」の組織的取り組みなどを進めます。

また、コスト上昇分の価格転嫁に向けて消費側の理解醸成に取り組み、物流・資材コスト低減に努め、JA組合員の農業所得向上に向けた機能発揮に努めて参ります。令和7年6月に成立し、この

4月に施行される「食料システム法」では、食料品の売買価格を決める際、必要なコストを考慮することを業者間で協議することが定められるなど、食料の持続的な供給を後押しする法整備が進みました。

持続可能な農業生産を推進するために、長野県本部内での3部連携を通じて担い手支援強化や、農業DX化による生産基盤強化にも取り組んで参ります。

長野県本部の令和8年度事業計画供給販売高は、2,800億円といたしました。JAおよび関係機関との連携を強化し、農業振興と地域活性化に向けての機能を誠実に果たし、会員JAの負託に応えて参ります。

引き続き、会員JAの皆様のおすすすめのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和8年4月1日

長野県本部長 長谷川 孝治

生産販売部

花きの商談会「信州フラワートレードフェア」を東京・大阪で開催

J A全農長野生産販売部は、2月18日(水)に大阪市の(株)なにわ花いちば、2月20日(金)に東京都中央卸売市場大田市場事務棟で、花きの商談会「信州フラワートレードフェア」を開催しました。この商談会は、県内J Aと卸売会社・実需者が、今年の出荷シーズンに向けて打合せを行う場で、今回で通算20回目の開催となりました。

当日は県内から延べ9 J Aが参加し、卸売会社11社、実需者16社を迎えて商談を行いました。商談では、各J Aのブースに卸売会社・実需者が1時間単位で周り、産地から定期的な予約相対や出荷集中時・需要期の注文対応、産地フェアなどの取り組みについて提案しました。また、変化している需要や売り場の様子、県内産地での生産状況について情報交換を行いました。さらに産地からは、生産現場のコスト上昇や高温対策の現状を市場および実需者へ伝えました。夏場の猛暑などにより出荷が不安定になる中、生産地の状況を実需者に直接伝えることの重要性を改めて感じる機会となりました。

今回の商談の成果として、直近では4月のアルストロメリアの出荷最盛期における販売対策や産地フェアの組み立て、また実需者による産地訪問などの実施が決まりました。商談内容を今後さらに精査し、令和8年度の出荷シーズンに向けた取り組みを今後も進めてまいります。



2月18日に開催した大阪会場の様子



2月20日に開催した東京会場の様子

施設住宅課

令和7年度

施設住宅課の取り組み

J A全農長野施設住宅課は、施主代行業を基本として一級建築士事務所による専門性を発揮し、事務所などの一般建築から農業施設まで幅広い施設の設計・管理を行っています。また、コンサルタントとして農業施設の高度化・再編への対応並びに組合員ニーズに応える住環境改善事業に取り組んでいます。

■建築

新築の設計・工事監理をはじめ、J A施設のリニューアルやリノベーション改修等J Aの施設建設・改修・整備について、相談から設計・業者選定・発注行為・施工管理を一貫して取り組みました。

また、J Aグループである(株)長野エーコープサプライ虹のホール改修や(株)長野県A・コープファーマーズうえだ店の改修についても設計・管理を行いました。今後も新規物件はもちろん、既存施設の改修等施設の有効活用の提案についても積極的に取り組んでまいります。



J A 中野市金融店本店改装工事



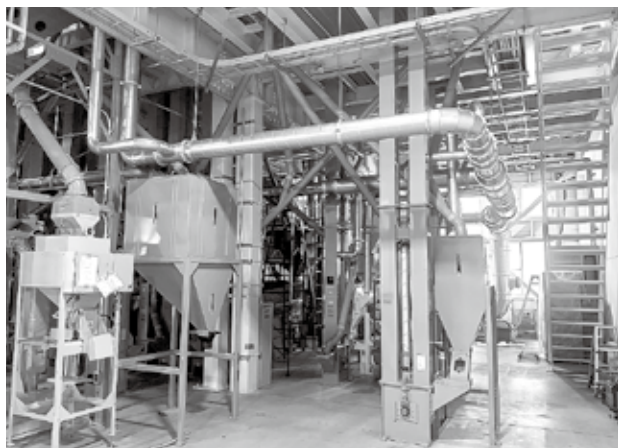
J A 松本ハイランド工機センター筑北事務所等移転新築建設工事（事務所棟）



虹のホールまめじま改修工事



A・コープファーマーズうえだ店改修工事



J Aグリーン長野信田種子センター新設工事

■農業施設

系統組織として長年培ってきたノウハウを活かし、施設の高度化・効率化、環境に配慮した提案を行っています。国の補助事業を活用した米麦施設や選果貯蔵施設の新築や機器の入れ替え等の改修において、計画から建設、プラント設備工事まで一貫して行い、J Aと一体となり事業に取り組んでいます。

既存施設では建物・機器の老朽化等に対応し、集出荷場・冷蔵庫・選果貯蔵施設から米麦施設まで様々な施設の改修や機器更新により、施設の高度化・効率化に取り組んでいます。



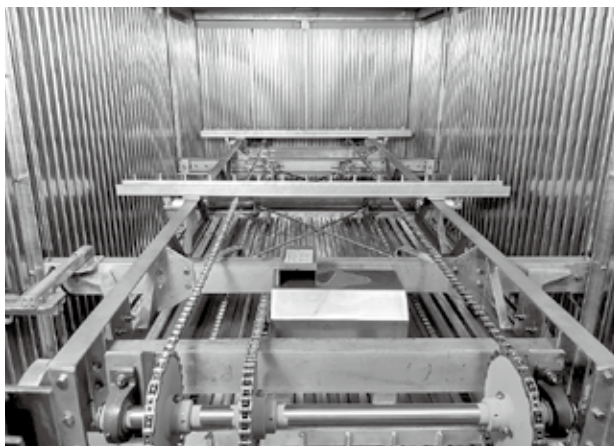
J A松本ハイランド広域和田ライスセンター工事



J Aながの須坂共選所建設工事



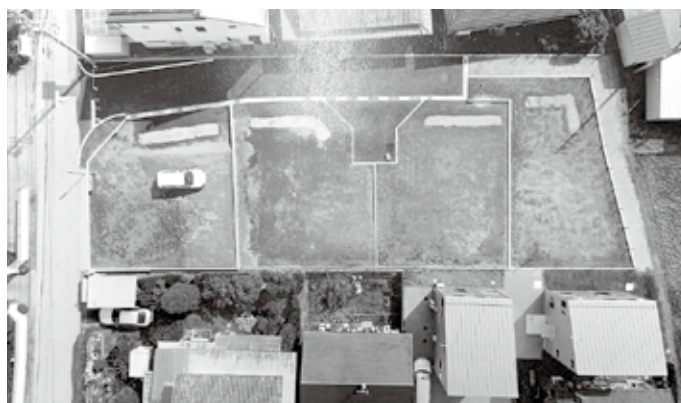
J A佐久浅間北大井VPCブロッコリー選果機導入工事



J A川上物産野辺山集荷場製氷貯氷設備設置工事

■まとめ

施設住宅課では「2050年カーボンニュートラル」に向けたエネルギー消費量削減への取り組みを進め、J A・地域組合員の皆様のご要望に沿った施設づくりを続けてまいります。



J A佐久浅間(株)アメック長土呂(水引)分譲宅地造成工事

■住宅事業

J Aとの一体事業として、組合員の土地活用を支援しています。また、高齢化に配慮したリフォームや建物保全に係る白蟻防除等にも取り組んでいます。

果実花き課

長野県産ブドウ「ナガノパープル」を使用したクラフトチューハイ 「寶CRAFT」＜信州ナガノパープル＞発売

3月10日(火)、長野県産原料を使用したクラフトチューハイ「寶CRAFT」＜信州ナガノパープル＞が宝酒造(株)より新発売されました。これに先立ち9日(月)、長野県知事への表敬訪問と記者会見を行いました(=表紙上)。

宝酒造の池谷俊之関信越支社長、J A全農長野の長谷川孝治県本部長など関係者が阿部守一知事を訪問し、新発売の報告と商品を紹介しました。長谷川県本部長が「長野県果樹試験場で開発していただいたナガノパープルの加工品は、青果が無い時期でも旬の味を楽しんでいただける。また、県の名前を冠したナガノパープルの品種が様々な形で認知度を上げ、生産者の生産意欲向上や青果の販売にも還元されてくると考えます」と話しました。池谷関信越支社長は「長野県の果実を使用したアイテムとしては、2020年の＜信州シナノリップ＞に続く2種類目。ナガノパープルは皮ごと食べられる特徴を持ちながら果皮が薄く裂果しやすいという課題を、生産者の皆様や関係者の努力により克服して栽培されてきている」と商品概要を説明しました。阿部知事は「飲みやすくナガノパープルの特徴が多くの人に伝わるのではと思います。長野県は“地酒で乾杯条例”があるので、そのラインナップに加えていただきたい」と期待しました。

続く記者会見では全農長野の小林博生産販売部長が「長野の名前が入る商品をPRすることによりナガノパープルの知名度を高め、青果の良さも知ってもらいたい」と話すと、宝酒造商品第二部の田中宏佑技術課長が「ブドウの甘さを感じてもらいつつ、甘いだけではなく食中酒として地域の食と合うように渋みも感じるように仕上げた。個人的には“山賊焼き”のコクと相性が良くオススメしたい」と説明しました。

午後には「和牛焼肉“信州そだち”」で宝酒造と全農長野の懇談[※]を行いました。対談では開発のきっかけや商品の味わい、商品に対する期待やパッケージデザインについて語り合いました。

発売日、長野県A・コープ ファーマーズ南長野店では、新商品を棚いっぱい並べる売場づくりを展開していただきました。クラフトチューハイのセット箱入り(ナガノパープルとシナノリップ各1本)の商品も陳列予定とのことで、地元のお客様はもとより、観光客や訪日客などの人気商品としても育っていくことが期待されます。



信州和牛とも相性抜群



A・コープ ファーマーズ南長野店の売場



クラフトチューハイのセット



表敬訪問で商品を紹介する長谷川県本部長(右中央)



商品への期待を話す小林部長(中央)

「寶CRAFT」＜信州ナガノパープル＞

アルコール分：8% 果汁分：2%

容 量：330ml/罐

参考小売価格：344円(消費税抜き)

販 売 地 域：長野県、群馬県、栃木県、茨城県、新潟県

※対談の様子はJ A長野中央会のメルマガ「長野県のおいしい食べ方」に掲載されています。

詳しくはこちら



(福岡販売事務所)

令和7年度 山口・九州地区でのきのこの消費宣伝活動について

J A全農長野福岡販売事務所では、長野県産きのこの魅力発信を目的とし、調味料メーカーとのタイアップによる販売促進や食育活動などに取り組み、長野県産きのこの認知度向上とPRに努めてまいりました。

■調味料メーカーとのタイアップ宣伝

調味料メーカーの商品と長野県産きのこを組み合わせた売り場を展開し、材料であるきのこやメーカーの商品を、メニュー提案をとおしてアピールしました。コープ九州連合の各店舗では、福岡県の調味料メーカー「久原醤油」とタイアップし「長野県産きのこ×スープカレー」や「長野県産きのこ、ハクサイ×きのこのだしパスタ」などの企画を実施しました。調味料メーカーにご協力いただきオリジナルPOPを作成・掲出しながら、関連陳列による相乗効果を図ることができました。



長野県産きのこ×スープカレー



長野県産きのこ、ハクサイ×きのこのだしパスタ

■きのこ・野菜・果実の総合販売による店頭宣伝

九州地区は長野県産きのこの競合産地であることや、長野県からは長距離輸送となることから、山口・九州地区での販売スペースの確保は容易ではありません。このため、長野県産の強みである「野菜・果実・きのこ」の総合品目による売り場づくりに取り組みました。



長野県産きのこハクサイの総合販売（左：九州地区 右：山口地区）

コープ九州連合やダイレックス山口の店舗では、長野県産きのこを中心に、ハクサイなどと合わせた総合販売を実施し、魅力発信につなげました。

■山口地区での食育活動

令和7年度の新たな取り組みとして、山口地区の幼稚園向けに食育活動を実施しました。(株)魚国総本社にご協力いただき、えのきたけ・ぶなしめじのサンプル提供やクイズやきのこに触れる体験等を通じて、



幼稚園での食育活動



子どもたちが長野県産きのこを楽しく学べる機会を作りました。

食育活動をきっかけに、幼稚園やご家庭での会話を通じて、購入時には長野県産きのこを選んでいただけるよう、今後も継続して実施してまいります。

米穀課

長野米カップ長野県小学生バレーボール大会

J A全農長野と㈱マイパール長野は、3月1日(日)に長野運動公園総合体育館ほかを会場として開催された「第19回長野米カップ長野県小学生バレーボール大会」(主催:(一財)長野県バレーボール協会、長野県小学生バレーボール連盟)に協賛し、賞品と参加賞を提供しました。

本大会には、ブロック大会の結果から推薦された男子8チーム・女子16チーム、さらに地区大会の結果から推薦された混合4チームが出場し、県内各地より総勢392名の小学生選手が集まり、熱戦が繰り広げられました。

賞品として、全農長野米穀課より男女の優勝・準優勝・3位(2チーム)にあたる計8チームと、混合チームの優勝・準優勝の2チームへ「風さやかパックごはん」を贈呈。また、参加賞として㈱マイパール長野より、参加者全員に「無洗米長野コシヒカリ1kg」をお渡ししました。

全農長野米穀課では、今後も長野米のブランド確立ならびにPR・消費拡大に向け、積極的に取り組んでまいります。



県内各地から集まった小学生選手



表彰式の様子



くらし支援課

PO印刷本社前の看板を架け替え



瞬間を切り取った印象的なビジュアルを採用。黒を基調とした背景により信州和牛ならではのきめ細かな美しい肉質が一層目を引きます。長野市にお住まいの方はもちろん、長野市を訪れた方にも「一度味わってみたい」と思っただけのデザインを意識して作成しました。

お近くを通行される際は新しい看板にご注目いただき、和牛焼肉「信州そだち」をぜひご利用ください。

※令和3年度全国道路・街路交通情勢調査

J A全農長野くらし支援課は2月下旬、J A長野県グループであるPO印刷(株)本社前に設置されている屋外看板を、「和牛焼肉「信州そだち」」の新デザインへと刷新しました。

今回の看板は、県内の一般国道で2番目に交通量[※]が多い長野市青木島町の交差点に位置しています。長野インターチェンジから長野市街地へ向かう主要道路沿いにあり、信号待ちの車両からもよく見える場所です。

新デザインでは、焼き網に信州和牛を乗せた

令和8年度 機構・分掌・要員について

I. 基本的な考え方

1. 中期3か年計画（令和7～9年度）に基づき、JA・県域および子会社の機能を最大限発揮し、各部門の事業競争力強化に取り組むとともに、JA経済事業の収支改善および農業所得の増大と地域の活性化に取り組む。
2. 部門間連携による生産提案と営農指導支援の機能発揮に取り組むとともに、農業DXの推進による作業効率化、生産性の向上をすすめる。
3. 農業基盤維持のため、マーケットニーズに応じた生産提案をはじめ、気象災害・変動に対する品目提案、生産安定化対策に取り組む。信州産農畜産物の販売力強化と、適正な価格形成、資材コストの低減に取り組む、農家組合員の手取り最大化を目指す。くらし支援事業は、変化する組合員・消費者ニーズに応じた新規事業の構築に取り組むとともに、ホームエネルギー取扱体制の構築、地域インフラの維持をすすめる。
4. 県本部総合経営管理の堅持ならびにコンプライアンス態勢の推進により、JAグループ全体の経営基盤確立をすすめる、県域結集の拡大と成果を還元できる県本部の運営を行なう。

II. 機構・分掌の主な変更内容

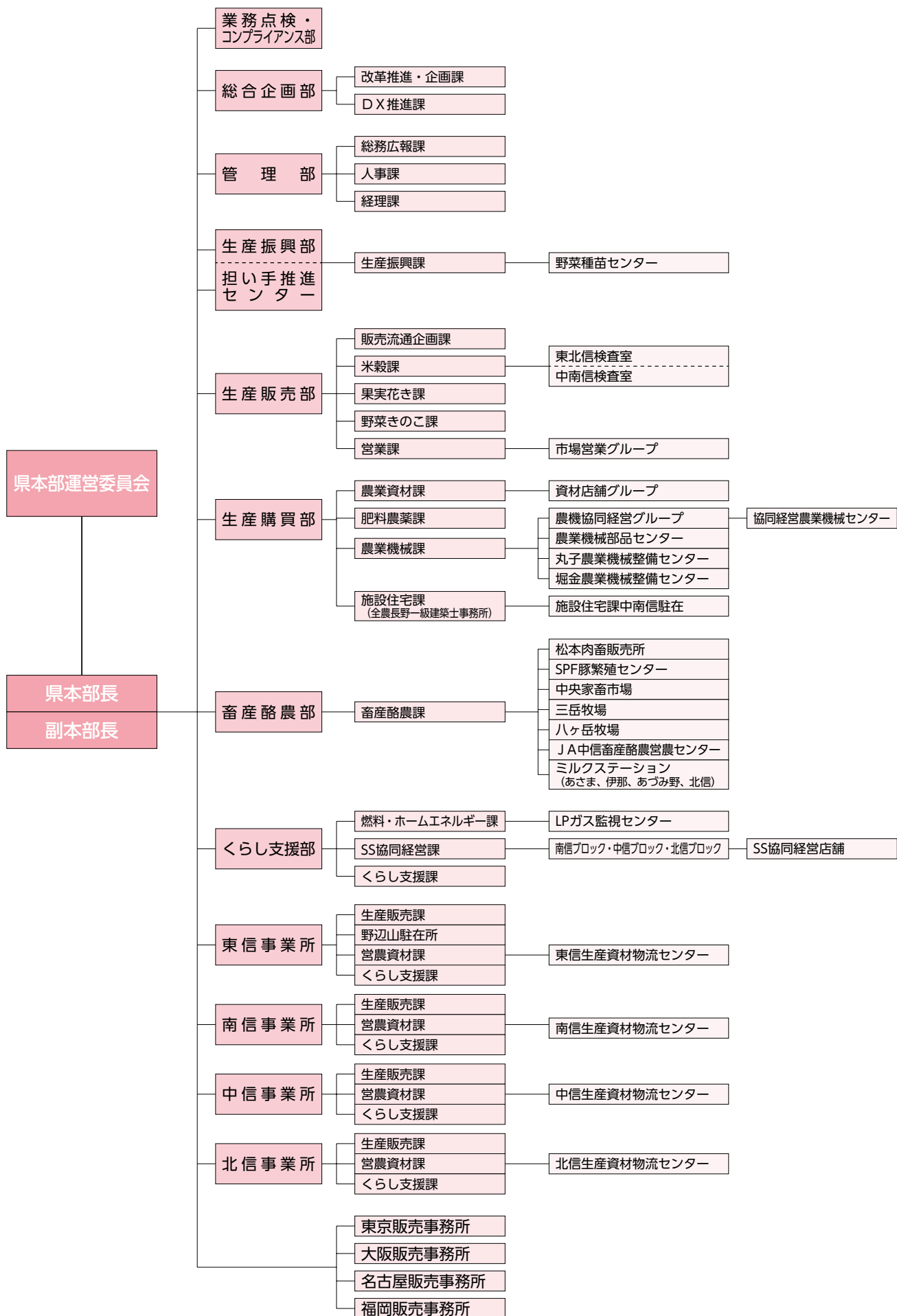
1. 長野販売事務所を廃止し、新たに生産販売部営業課に「市場営業グループ」を設置する。
2. 畜産酪農部の専任部長は、廃止する。

● 人事異動

全農長野県本部（令和8年3月9日付）

副本部長	▷長野県本部長付（副本部長＜企画・管理・畜酪・くらし支援＞）	高木 昭彦
	▷副本部長＜営農・販売・くらし支援＞（副本部長＜営農・生産＞）	根津 彰寛
	▷副本部長＜企画・管理・購買・畜酪＞（総合企画部長）	小池 経夫
部長級	▷総合企画部長（畜産酪農部専任部長）	飯島 貴彦
	▷管理部長（総合企画部副部長兼改革推進・企画課長）	川手 秀樹
	▷くらし支援部付（管理部長）	佐藤 剛
副部長級	▷総合企画部副部長兼改革推進・企画課長（生産購買部副部長兼肥料農薬課長）	青木 哲也
	▷管理部副部長兼経理課長（管理部経理課長）	藤澤 孝彦
	▷生産振興部副部長兼生産振興課長（大阪販売事務所長）	上市 康宏
	▷生産販売部副部長兼野菜きのか課長（北信事業所次長兼生産販売課長）	岡村 隼人
	▷生産販売部副部長兼営業課長（東京販売事務所長）	古越 悟
	▷生産購買部副部長兼肥料農薬課長（生産購買部副部長兼農業資材課長）	宮本 隆彦
	▷生産購買部副部長兼農業機械課長（生産購買部農業機械課長）	傘木 英伯
	▷畜産酪農部副部長兼畜産酪農課長（畜産酪農部八ヶ岳牧場長）	坂田 俊之
	▷くらし支援部副部長兼くらし支援課長（くらし支援部くらし支援課長）	林 直美
	▷東信事業所次長兼生産販売課長（中信事業所次長兼生産販売課長）	三澤 謙一
	▷南信事業所次長兼生産販売課長（南信事業所生産販売課長）	梅澤 理恵
	▷北信事業所次長兼生産販売課長（生産販売部副部長兼果実花き課長）	小林 強
	▷東京販売事務所長（生産販売部副部長兼営業課長）	若月 公一
	▷大阪販売事務所長（生産販売部野菜きのか課長）	土屋 雄一
	▷管理部付（東信事業所次長兼生産販売課長）	中澤 昌弘
	▷畜産酪農部付（畜産酪農部副部長兼畜産酪農課長）	小林智一郎
	▷くらし支援部付（くらし支援部副部長兼燃料・ホームエネルギー課長）	小池 英樹
課長級	▷生産販売部果実花き課長（生産振興部生産振興課長）	八木 立太
	▷生産購買部農業資材課長（東信事業所営農資材課長）	小林 且明
	▷くらし支援部燃料・ホームエネルギー課長（中信事業所くらし支援課長）	野澤 剛士
	▷東信事業所営農資材課長（生産購買部農業機械課長代理）	一由 明
	▷中信事業所生産販売課長（生産振興部生産振興課長代理）	佐藤 晃一
	▷中信事業所くらし支援課長（くらし支援部SS協同経営課南信エリアマネージャー）	富岡 妙子
	▷畜産酪農部付（長野販売事務所長）	小口 敏樹

令和8年度 全農長野県本部機構図



JA全農長野の事業現況

令和7年度2月末総供給販売高実績表 (単位:百万円、%)

品目	区分	当年度実績	計画比	前年比
生産振興課		0	—	2
野菜種苗センター		177	104	116
生産振興部計		177	104	113
米	穀	21,448	112	109
果実花き		50,373	95	94
野菜きのこ		69,839	96	95
営業		14,140	92	97
生産販売部計		155,799	97	97
農業資材		10,743	96	99
肥料農薬		7,658	106	102
農業機械		6,019	112	110
施設住宅		3,484	128	76
生産購買部計		27,905	105	98
畜産酪農		29,837	103	101
三岳牧場		210	69	82
S P F繁殖センター		248	84	102
ハケ岳牧場		264	93	94
畜産酪農部計		30,560	102	101
燃料・ホームエネルギー		23,920	105	94
S S 協同経営		6,881	112	94
くらし支援		6,783	99	95
くらし支援部計		37,584	105	94
長野県本部計		251,937	100	97

(内部販売高含む)

松本山雅FCにミニゴールと長野米を贈呈

J A 全農長野は、松本山雅FCにミニゴール8台と長野県産コシヒカリ300kgを贈呈しました。

3月21日のホームゲームで贈呈式が行われ、贈呈したミニゴールを前に、全農長野の長谷川孝治県本部長と松本山雅FCの小澤修一社長が固く握手した後、俵を贈呈しました。

ミニゴールはクラブの練習場所である松本市かりがねサッカー場などで活用されます。



©松本山雅FC

4月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	出演者(予定)
4/14(火) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「いい」JA家庭菜園	資材店舗グループ
4/22(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	農業機械課

グリーンレーダー
X(旧ツイッター)はこちら



グリーンレーダー
WEB版はこちら



編集後記

暖かい日が続くようになりまし
た。花々は冬の厳しい寒さに耐えて
育ち、それぞれ美しい花を咲かせて
います。庭に咲く花、鉢花、切り花
などを眺めていると自然と心が癒さ
れます。花や緑を感じられる中で新
年度が始まりました。新たな気持ち
の期待感や物事に取り組みする緊張
感を大事にしていきたいと思いま
す。

国際情勢に目を向けるとロシアに
よるウクライナ侵攻は4年を経過
し、米国・イスラエルによるイラン
攻撃による中東情勢の不安定化によ
る原油価格の高騰など、農畜産物の
生産コストは上昇しています。戦争
も二酸化炭素など温室効果ガスの排
出により、温暖化を加速させている
一つの要因となっています。昨夏の
記録的な猛暑、自然災害の激甚化な
どにより農業を取り巻く環境は厳し
い状況が続いております。

全農長野県本部としては、環境負
荷軽減資材や栽培技術の検討および
普及に向けた試験を実施していきま
す。また、安全・安心な農産物の供
給を行い、ブランド強化のため、テ
レビCMをはじめとする様々なメ
ディアを活用し、積極的な情報発信
を行っていきます。

持続可能な農業生産基盤づくりに
よる生産量の維持・拡大をはかるた
め、共に新年度の目標達成に向けて
の改革を実践し、農業・社会を取り
巻く課題解決に向けて積極的な取り
組みをしていきたいと思います。
(丁)

春には春の

JA全農長野です。



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

